

## 会員制情報誌「たのし」へ掲載

氏名：西鳥 幸夫 職業：経営コンサルタント（ISO取得支援） 都道府県：東京都

会員制情報誌「たのし」にて銭屋五兵衛のことを書きました。

銭屋五兵衛記念館 1 1 代目館長さんにも読んで頂きました。

掲載された記事はこちらです。



[「海の百万石」.pdf](#)



# 海の百万石を築いた銭屋五兵衛

## 北前船が運んだ野望とロマン

いしかわ観光特使 西島 幸夫



銭屋五兵衛肖像

は、北前船交易で蓄えた身代が加賀百万石にもおとらないという噂だ。フィクションとはいえ、舟橋は執筆の際に金石を訪ね、銭五研究者に綿密な取材をした。スケールの大きいスリリングな海の物語である。

栄華を極めたが悲惨な結末

五兵衛は安永2(1773)年加賀の宮腰(現在の金沢市金石町)に生まれた。17歳で家老古着呉服商など)を継いで精進したが39歳の時、質流れの120石積みみの船を修理し海運業に乗り出した。以後30年間精進込みで事業拡大に努め、たびたび加賀藩に御用金を上納し、その地位を高めた。後に藩の家老格のひとつり奥村丹後守が後ろ盾になり隆盛を極めた。



日本海を覗く銭五銅像(金石 銭五公園)

最盛期の銭屋は江戸、大阪、長崎など全国34ヶ所に支店を設け、手持の船だけでも一説では千石積以上6隻

を含む200隻、土蔵78ヶ所に及んだという。

奥村と細川で御用金の見返りとして藩の御用船の哉を受け、2隻を新造し、苗字帯刀も許された。加賀藩財政逼迫の折柄、たんまり儲けさせる代わりに藩の財政も助けよという筋書きた。

銭五の抜け荷(密貿易)の実態は、御法度の時代で真相は数の中でわからない。伝聞では北はロシアから、南はオーストラリアにおよぶ広い海域で交易しただけ。

しかし、銭五の後ろ盾、奥村丹後守が急逝し(小説では毒殺される)、その立場は暗転する。その頃、幕府から抜け荷の疑いがかけられていたこともあり、反奥村派の面策により謀られ窮地に陥れられた。晩年願ひ出た河北潟干拓事業で、潟に毒を入れて魚の絶滅を図った嫌疑で一族ごと捕縛された。銭五は潔白を貫いたが高齢の為牢死した。享年80。罪なき一族に磔など過酷な処罰が下され、酸鼻をきわめた悲惨な結末となった。

銭五ゆかりの金石を訪ねる

銭五の真実を知りたいと金石から西へ6キロ、舞台となった金石へ行った。その偉業を顕彰する銭屋五兵衛記念館を訪ねた。

名誉館長の荒川勝治氏の出迎えて見学した。千五百石の北前船が復元(宝蔵の1/4)され、五兵衛の生涯がパネル、映像、資料、遺品で紹介されている。

ゆかりの茶室が移築され、所持していた茶道具の特別展が開かれていた。隣接する「銭五の館」には現存する旧銭屋の本宅の一部と蔵が移築され、当時の住居を再現している。わかりやすい展示で興味深く回った。晩年は文人墨客と交遊し、魚果と号して句作にふけり、茶道も嗜む一級の文人でもあった。

加賀藩が幕府から「抜け荷を黙許していた」と疑われることを恐れ、保身のために取り潰し



館内の北前船常豊丸の縮小模型(写真提供 銭屋五兵衛記念館)

たのが銭五の悲劇だ。また藩の政争に巻きこまれて一族に罪科が被せられ、巨財も没収された。幕府の軍艦奉行勝海舟が述べられている。「銭五のやった密貿易位のこと、大目に見えて。加賀藩のほうで大騒ぎをやって殺してしまった。(中略)何も、あんなに、むごたらしく殺すほどのことはなかったのに、経済的手腕に秀でて汚れたのは、悲惜しいことであつた。あれは加賀藩政の大黒星である。」

五兵衛が獄死したのは、幕府が開国に転ずる僅か2年前のことだった。過酷な処置にもかかわらず、後世の藩政への批判は土地柄のせいか弱いように感じる。五兵衛の句碑が秋風に吹かれていた。

降る雨を

麓に見るや 夕紅葉  
(この項おわり)

参考文献

国民の文学12 舟橋聖一(昭和43年9月刊 河出書房新社)